

## 令和4年度 県立江戸崎総合高等学校自己評価表

目指す学校像	1 規律を重んじながら生徒一人一人の個性を伸ばす、創意と活力に満ちた学校 2 地域の様々な教育的ニーズに応える、生徒、保護者及び地域住民に広く信頼される学校 3 生徒一人一人の興味・関心、能力・適性に応じた進路の実現ができる学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
1 学力や学習意欲に関して多様な生徒に対応するため、特別進学クラスの設置や少人数による授業展開（数学・英語）を実施している。また、生徒主体による中学校での出前授業をはじめ、地域連携活動をとおして、生徒の自己肯定感・有用感を高める指導を推進している。さらに、各種検定試験の全員受験を実施し、近年の3年次における資格記入率（就職履歴書）は約9割となるなど、一定の成果をあげている。	基礎学力の向上と個に応じた学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業に臨む基本的な態度を育成し、学力の定着を図る。また、主体的に学ぶ意識を育成する。</li> <li>I C Tを活用した教育の推進を目指すと共に、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる。</li> <li>生徒に興味・関心を持たせる授業を工夫し、知識・技能の習熟を図る。また、各種検定試験の合格を目指す。</li> </ul>	A
2 進路希望は、就職から国公立大学進学まで、生徒一人ひとりの希望は多岐にわたっている。就職については、学校を通しての就職内定率が約99%になるなど、高い実績をあげている。進学については、特に医療・看護系学校への希望が年々増えているが、組織的かつ継続的な取組により全員の進路実現を果たした。	基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>頭髪・服装・遅刻指導について、日常的・継続的な生徒指導を徹底する。</li> <li>保護者に対して、様々な機会を通して規則・規律の尊重についての理解を求める。</li> <li>生徒指導に対する職員間の共通理解を深め、一致協力して指導にあたり、充実させる。</li> <li>授業や学校行事で5分前を意識した行動に努める。</li> </ul>	B
3 積極的な指導を通して生徒の規範意識は高まっている。また、昇降口指導や服装指導を全職員で継続した結果、チェックを受けた生徒数は年度末には激減した。ここ数年続いていた重大交通事故は1件もなく、交通安全指導の成果が見られた。家庭と連携した指導と教職員全体の指導実践をさらに一致させ、指導体制をより強固にしている。	進路希望の実現と指導体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の多様な進路希望をふまえ、個に応じたきめ細やかな進路指導の充実を図る。</li> <li>インターンシップを実施し、進路について自ら考え主体的に決定できる力を育てる。</li> <li>「産業社会と人間」の時間の一層の充実に努め、3年間を見通した進路シラバスに基づく指導を実践する。</li> <li>模擬試験や資格取得を推進し、進路希望の実現を図る。</li> </ul>	B
4 生徒会役員の定例会を毎週1回行っている。また、応援団、文化祭実行委員会に多くの生徒が積極的に参加するようになった。ボランティア活動にも熱心に取り組んでいる。特別活動を通じた活動記録を、「江総ポートフォリオ」（キャリアパスポート）に記録している。	地域と連携した学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭や地域社会と連携した、開かれた学校づくりに務める。</li> <li>「各県立学校等チャレンジ・プロジェクト」を通して、地域貢献、地域連携、地域共生を目指す。</li> </ul>	A
	生徒の主体的活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動へ積極的に参加し、学校生活への興味・関心を高める。</li> <li>学校行事や生徒会活動に積極的に参加できる工夫をする。</li> <li>勤労体験やボランティア活動を通して心の育成を図る。</li> </ul>	B

5 勤務時間外の在校時間が月 45 時間を超過している教員が少なからず存在する。		働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「きんむくん」を活用し、教職員の在校等時間の正確な把握を行う。</li> <li>・学校における資料の電子化を推進する。</li> <li>・定時退勤時間の設定等をとおして、教職員の働き方改革に対する意識を高める。</li> </ul>	A
三つの方針		具体的目標	評価	次年度（学期）への主な課題
「三つの方針」 （スクールポリシー）	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 （グラデュエーション・ポリシー）	（長期的目標） ○自ら学び、自ら考える意志をもって、意欲的に学習活動に取り組むことができる生徒 ○江戸崎総合高校生としての誇りをもち、地域社会の発展に貢献できる生徒 ○調和のとれた豊かな人間性や社会性を備え、よりよい社会を実現しようとする生徒	B	「総合的探究の時間」の更なる活用をはかり、自ら地域社会の発展に貢献しようとする態度の育成をはかる。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 （カリキュラム・ポリシー）	（中期的目標） ○生徒一人一人の個性を伸ばし、個々の教育的ニーズに応じた教育内容の充実 ○進路希望の実現に向けた、キャリア教育の充実 ○ICTの活用など多様な学びの機会を通した、広く社会で通用する思考力・表現力の涵養	A	B 全ての授業におけるICT機器の利用率にあげることにより、多様な学びの機会を増やす。
	「入学者の受入れに関する方針」 （アドミッション・ポリシー）	（短期的目標） ○互いを認め、高め合って協働し、切磋琢磨しながら成長しようとする生徒 ○基本的な生活習慣と基礎学力を身に付け、意欲的な学習を継続しようとする生徒 ○進路希望の実現に向け、主体的・意欲的に行動しようとする生徒	B	入学生に対する初期指導の充実をはかることにより、意欲的に学習を継続しようとする態度を育成する。

※評価基準： A：十分達成できた B：達成できた C：やや不十分だった D：不十分だった

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教科指導	①基礎学力の定着を図る。	・授業に臨む基本的な態度を育成する。	B	B 授業をスムーズに開始する。 授業の相互観察を活発にする。	
	②学習指導法の工夫を図る。	・定期的に授業公開を行い、指導力の向上を目指す。	B		
教	国語	①大学進学・就職活動に対応できる学力を育成する。	・3年次に小論文を指導できる体制を作る。	B	A 小論文を必要とする生徒が僅かなので構築機会がなかった。 個別対応は十分にできたので継続したい。 国語研究・国語常識では ICT スキルを向上させることもできた。 日々の取り組みを重点的に評価する方向を継続する。
			・授業や個別指導を通して、様々な希望に対応する。	A	
		②基礎基本の定着をはかり、「分かる」「できる」授業を展開して生徒の興味関心を高める。	・国語の一般常識の学習や語彙学習を行い、基礎学力の向上を目指す。	A	
			・達成目標や評価規準を明確にし、言語活動を充実させ、学習意欲を引き出す。	A	
	地歴公民	①基礎学力の定着を図る。	・授業に臨む基本的な態度を育成するとともに、基本的な事項や時事問題についてどの生徒も理解できるように、テーマや新聞などの教材を工夫する。	A	B 教材・教授法の工夫を常に試みながら、次年度も継続していく。 進路希望に応じた指導をさらに意識する。 「世界の中の茨城」をはじめとした地域教材を活用する。
		②個に応じた指導を行う。	・大学入学共通テスト・一般入試対応や就職試験対策などの演習を行うとともに 授業中も机間指導を積極的に取り入れ、生徒の実態に応じた指導を展開する。	B	
		③地域に対する理解を深め、郷土愛の精神を育成する。	・授業に地域の歴史・地勢・風土などの話題を取り入れることで、地域に対する理解を深め、地域を大切にする姿勢を育てる。	B	
	数	①基礎学力の定着を図る。	・単元の導入やまとめに既習事項の確認を行い、生徒の理解度に合わせた指導をする。	A	B ICT を活用し、個別最適化の取組を推進する。 教科の教員内での連携を行い徹底して実施する。 基礎の重要性を徹底する。 教員間の連携を図る。 特進以外の系列の生徒への対応。
			・日頃から家庭学習用のプリント課題を作成し、学習習慣の定着を図る。	B	
			・マナトレを活用し、既習事項の学び直しをすることで、知識の漏れをなくす。	A	
		②生徒に数学を学ぶ意義を実感させ学ぶ意欲の向上を図る。	・授業で学習した知識を活用する活動を定期的に取り入れ、数学の有用性を実感できるようにする。	B	
			・少数指導により、個々に応じた指導を行う。	B	
・放課後や休み時間を利用した課外を通して、より難易度の高い問題に触れる機会をつくる。			B		
③入試に対応できる学力の定着を図る。	・個々の能力に応じてプリント等を用意し、レベルの高い内容を学習させる。	B			
	①基礎学力の定着を図る。	・基本的な知識や概念を授業などで繰り返し取り上げ、小テストや演習問題で定着を図る。	B	B 次年度も継続して行う。 より効果的な活用方法を開発していく。 ニーズに合わせて実施していく。	
		②大学進学に対応した指導の充実を図る。	・ICT 活用などにより授業展開や実験などを工夫し、興味・関心を高め、思考を深める。		A
・個々に応じた課題を生徒に課し、学習習慣を身に付けさせる。	B				
科	保健体育	①社会生活で必要とされる知識の定着を図る。	・卒業後の社会生活を送るうえで必要とされる基礎的な知識を、繰り返し取り上げ定着を図る。	B	B 生徒に深く考えさせる授業展開 より効果的な教材の開発 自ら考え身体を動かすことを意識させる。 効果的な授業内容を検討する。 様々な活動の中で、達成感を味わわせる。 個々の意欲を高める方法を検討する。
		②学習意欲が高まるような指導の工夫を図る。	・視聴覚素材を効果的に使用したり、生徒にとって身近な話題や問題を積極的に取り上げ、生徒の興味・関心を促す。	A	
	③技能・体力の向上を図り、生涯スポーツの獲得を目指す。	・技能を身に付け体力の向上を図るための資質・能力の育成を図り、生涯スポーツを獲得するために積極的に授業に関わるよう指導する。	B		
	芸術	①芸術への愛好心を育む。	・芸術的活動を通して、感性と教養を向上させ、実生活の中で表現されたものへの気付きや感性を高める。	A	
②基礎表現技術を身に付ける。		・可能な限り個々の技術的レベルに沿って、表現体験の実現を目指す。	B		
③個性豊かな表現力を伸ばす。		・形や指示に沿うのではなく、意思と思考から発せられた表現に、前向きに取り組む。	B		

外国語	①分かる授業を展開する。	・個々の理解度を十分に計り、必要に応じて個別に対応しながら、基礎基本の定着を図る。	A	B	次年度も継続して行う。		
		・ICTを積極的に活用することで生徒の学習意欲が高まるように工夫をし、分かる授業に繋げていく。	B		より効果的な方法を検討・実践		
	②英検の受験を奨励する。	・授業を通して生徒の受験を促し、希望者に対して課外指導を実施する、また二次試験に対応できるよう指導する。	B		B	受験者数が少なかったため、改善策を考える。	
		・英検で能力が試される四技能を伸ばすために、授業における生徒主体の活動内容を検討する。	B				
	③入試に対応した実力を身につけさせる。	・上級学校受験希望生徒のニーズに応じた、より高度な授業を展開する。	B		B	より生徒の実情に応じた授業展開を考える。	
		・基礎基本の定着を図り、更なる実力向上のため、放課後などに課外授業を行い受験対策を図る。	B				
	家庭	①家庭生活を主体的に営むための基本的な知識と技術を育む。	・生徒の日常に沿った課題を提示する。		A	B	生徒の日常に沿った課題を探しながら次年度も継続して行う。
			・実習においてT Tの指導を行う。		A		次年度も継続して行う。
		②家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。	・ホームプロジェクトにより家庭生活の改善を図る。		B		HP提出率を上げる。ICTの活用
情報	①情報活用の実践力を養う。	・情報モラルとメディアリテラシーについて、プリント学習や実例の提示を通して理解させる。	B	A	生徒に合った教材の作成		
		・自ら課題を見つけ、解決へ導くことができるような課題を設定し、主体的に学ぶ態度を養う。	A		引き続き継続する。		
	②情報の科学的な理解を深める。	・情報手段の特性や情報の適切な扱い方を実習を通して理解をさせ、情報を活用できるようにする。	B		教材の精査を行う。		
農業	①実践教育を通して、生徒の興味関心を農業に引きつける。	・実験実習をより工夫し、生徒が自主的に取り組む授業を目指す。	A	A	引き続き継続する。		
		・生徒の教材となる農場運営を心掛ける。	A		引き続き継続する。		
	②個々の生徒に応じ、農業教育における活躍の場を設ける。	・農業クラブ活動を通し、生徒の個々の能力を向上させる。（農業クラブ県大会：最優秀1人以上）	A		引き続き継続する。		
		・農業技術検定等の資格取得を目指す（農業技術検定：合格率6割以上）。	A		引き続き継続する。		
	③学校と地域の連携を深め、地域貢献、地域共生を実践する。	・農業関連のHPをより充実させ、地域に情報を発信する。また、更新を月1回以上行う。	B		情報発信の頻度上昇を目指す。		
		・地域の幼小中学生等に農業体験学習の場を提供する。また、地域の環境美化等に協力する。	B		農業体験の場の提供を目指す。		
工業	①規律ある態度の育成をする。	・実習服の正しい着用の徹底、実習を受ける姿勢、実習に取り組む基本的な態度を育成する。	A	A	引き続き継続する。		
	②学習内容の厳選を行う。	・実習内容・方法の再構築を行う。	B		実践的な内容を検討する。		
	③学校と地域の連携を深め、地域貢献、地域共生を実践する。	・出前授業や作品展示を通して地元中学校との交流を図り、ものづくりの楽しさやメカニカルテクノロジーの取り組みを伝えながら、地元に戻元できる人材を育てる。	A		引き続き継続する。		
福祉	①基礎的な学力の向上と実践的な態度を身に付ける。	・社会福祉や介護の基礎的・基本的な知識や技術を総合的に学ぶ。	A	A	引き続き継続する。		
		・校外での介護実習を通して、より実践的な態度を育てる。	A		引き続き継続する。		
	②一人一人の能力に応じた指導の工夫と改善を図る。	・生徒の能力と実態に合わせて、ICTを活用し、授業を工夫・改善する。	B	B	ICTを活用した授業展開を検討		
		・主体的に学習する態度を身に付け、意欲的に課題解決能力を形成する。	B		実習発表会等、生徒が主体的に学習する場を作る。		
	③介護従事者としての専門的な知識・技術を習得し、育成する。	・対人援助を行う際のマナーについて生徒自らが認識し、あるべき姿を考えられるようにする。	A	A	引き続き継続する。		
		・福祉や介護について、看護の分野をなどから専門的な知識・技術の習得をする。	A		引き続き継続する。		
	④地域行事等に積極的に参加し、地域に戻元できる人材を育てる。	・学校間交流等の行事への参加や実習・就職を通して、地域との連携を図る。	A	B	引き続き継続する。		
		・「生徒生き生き育成プラン」の事業を通して、地域との連携を図る。	B		介護分野への就職率を上げる。		

教 務	①学習環境の整備及び授業改善の推進を図る。	・授業の振替を確実に行うことにより授業時間を確保する。	A	A	継続して推進する。
		・授業公開や研究協議をとおり、ICTを活用した授業改善を積極的に行うことで、質の高い学びの実現を図る。	B		ICT活用を継続して推進する。
	②教育課程や校内諸規程の見直しを検討する。	・教育課程検討委員会を中心に教育課程や系列の見直しを継続して進める。	A		実情に合った教育課程の見直しを検討する。
		・校内諸規程の見直しを継続して進める。	A		必要に応じて見直しを進める。
	③地域との連携を推進する。	・チャレンジ・プロジェクト事業をもとに、地域との連携を充実させる。	A		新たな方法を模索しながら継続して推進する。
		・地域連携委員会を中心にHPや公式インスタグラムの内容の充実、出前授業など中学校での活動の強化をとおり、特色ある本校の教育活動を積極的に広報する。	A		新たな方法を模索しながら継続して推進する。
生徒指導	①生徒の規範意識を高めると共に、基本的生活習慣の向上に努める。	・生徒との信頼関係の構築を重視し、面談や声かけなど、心に響く指導を展開する。	A	B	継続して支援していく。
		・規範意識や基本的生活習慣の向上と定着を図るため、職員全員で積極的な声かけを行う。	B		より協力して行える指導体制を構築する
		・ルールやマナーを尊重する態度を育成するため、職員間、職員と保護者の連携体制を強化する。	B		より協力して行える指導体制を構築する
	②自他の生命を尊重する精神を養うと共に、豊かな心を育成する。	・自他の生命、尊厳を尊重する精神を養うため、HR、年次集会や各種講話の充実を図る。	A		継続して推進する。
		・交通マナーや交通安全の意識の向上を促すため、定期的な登下校指導、自転車・バイク点検、安全運転講習会を実施する。	B		事故数が減少するように策を見直す。
進路指導	①生徒個々が適した進路選択をし、実現を目指す。	・2年次と連携してインターンシップを実施し、将来就きたい職業について考えさせる。	B	A	参加者増加の手立てを検討する
		・卒業生講話や進路報告会を実施し、将来の進路選択を決定させる機会とする。	A		さらに連携を図る。
		・地域の大学と連携し、サマースクールを実施する。	A		さらに連携を図る。
	②進路情報を進路指導部や各年次と共有し、生徒に進路選択の情報提供に努める。	・進路当番やクラスルームを利用して、最新の進路情報の共有を行う。	A		さらに連携を図る。
		・進路閲覧室の整備や廊下のポスター類の掲示などにより、生徒に最新の情報を提供できる環境を整備する。	A		さらに充実を図る。
		・年次ごとの取り組みを共有し、次年度へ継承できる体制を構築する。	A		さらに連携を図る。
特別活動	①キャリアパスポートについて本校の「江総ポートフォリオ」を活用し、行事を通じてキャリア形成を図る。	・生徒会定例会を毎週開き、本部役員の意識向上と資質の向上を図る。	A	A	継続して支援していく
		・江陵祭実行委員・クラスマッチ実行委員・応援委員等について、本部役員以外の多数の生徒が運営に参加し、主体的な活動ができるように支援する。活動に関しては、「江総ポートフォリオ」に記録し、振り返りができるようにする。	A		生徒・教職員の安全性を確保しながら各種学校行事を実施する。
		・部活動説明会、体験会等を実施し、生徒が積極的に部活動などに加入・参加できるようにする。	A		部活動地域移行への体制づくりを推進する。
	②部（同好会）活動・委員会活動の活性化を図る。	・年3回の各種委員会を設定し、目標設定・計画立案・反省・評価ができるようにする。	B		主体性の育成及び内容の精選を図る
③地域行事へ積極的に参加する。	・地元自治体と連携し、自治体主催の行事や「生徒活き活き育成プラン」等の事業を通して、地域の行事へ積極的に参加できるようにする。	A	積極的に地域との連携を図れるよう支援していく。		
保健厚生	①学校環境の整備、美化に努める。	・ゴミの分別回収、清掃分担区域の清掃の徹底を図る。	A	A	清掃は各区域概ねできていた。
		・環境美化委員会の活性化を図る。	B		重点清掃区域を設ける必要がある
	②健康について意識の高揚を図る。	・身体測定、健康診断を一斉実施し、「保健だより」による情報提供をする。	A		継続して実施する。
		・保健委員会の活性化を図る。	B		教職員が協力して行う事が必要
	③防災、安全衛生点検に努める。	・事故の未然防止を図るための避難訓練および校舎内外の点検、水質検査を実施する。	A		衛生委員会と連携して行う。

図 書	①図書館の利用頻度を高める。	・図書だよりや図書購入リクエストのお知らせを classroom で職員に通知する。	A	職員から多くのリクエストを受けた。次年度は生徒へも通知したい。		
		・教職員、生徒が興味関心を持つ書籍を購入する。	B		A	生徒の貸出数が増えなかったの で、生徒に対しても上記を実施 したい。
	②図書委員会の活性化を図る。	・書籍資料の点検、整理整頓を心がける。 ・図書の貸し出し、ガラスケース展示の補助を図書委員に任せ、図書委員会の活性化を図る。	A		除籍を行い、書籍の整理ができた。 図書委員に展示、貸出作業を行 ってもらった。次年度はより多 くの図書委員に活動に参加して もらうよう声掛けをしたい。	
		③蔵書の管理を図る。	・コンピュータによる蔵書管理を進める。		A	コンピュータによる登録作業、書 籍の検索等を毎月行っている。
・書籍資料の受入、除籍を速やかに行う。	A		速やかに行うことができた。次 年度も除籍を定期的に行いたい。			
渉 外	①PTA活動の充実を図る。	・PTA会員による活動を周知し、会員の行事への参加率を高める。	B	PTA 総会議案決議の回収率増加 会報誌を継続して発行する。		
		・家庭と学校との密接な連携を目指し、会報誌の発行や学校行事等への積極的な参加を呼びかける。	B			
	②教育環境の整備・充実を図る。	・登校・校外指導を通じ、生徒の規範意識、基本的生活習慣の定着を図る。	B		B	月1回の登校指導を継続実施中
		・生徒・保護者からの声を聞き、よりよい校内環境を整えられるよう努める。	B		PTA 役員からの意見を集約し、環 境整備に生かす。	
	③会員相互の親睦を図る。	・研修を計画することで、アイデアを募り、会員相互の親睦を図る。	B		アフターコロナを踏まえた研修 の在り方を検討する。	
		・同窓会・後援会との連絡を密にし、学校行事等への一層の理解と協力を得る。	B		創立20周年の準備を開始した。	
情 報	①情報セキュリティを徹底する。	・教職員のセキュリティポリシー意識を高め、遵守させる。	B	意識のアップデートが必要 未達成のフォルダがある。		
		・情報資産の洗い出し・整理・廃棄・メンテナンスを実施する。	B			
	②ICT環境整備・支援を行う。	・ICT機器・ネット環境の動作点検、速度確認を行う。	B		B	Wi-fi 等の不具合の解決を図る。
		・初歩的な段階からのICT研修を実施し、作業時間の削減と働き方改革につなげる。	B		校務フロー自体の見直しが必要	
	③情報モラルを徹底する。	・教職員の情報モラルを高める。	B		公私の区別を明確にする。	
		・生徒の情報モラルを高める。	B		大多数の生徒は高まっている。	
1 年次	①基本的生活習慣を確立する。	・挨拶の励行や標準服の正しい着用、時間の厳守等、基本的生活習慣の確立を図る。	B	引き続き遅刻・欠席減少に努める 引き続き継続する。		
		・学校が自己実現の場として最大限の機能を果たせるよう、常に環境改善に努める。	A			
	②社会性の向上を図る。	・善悪を判断する力、正義感、公共のルールやマナーを守る姿勢を身に付けさせる。	B		B	日々の教育活動において善悪の 判断ができる力やルールを守る 姿勢を育成する。
		・周囲に感謝する心や互いに助け合う精神、思いやり、多様な意見を尊重する姿勢を醸成する。	B		他者理解に努め、思いやりの心 を育成する。	
	③進路目標を設定し、基礎学力の定着を図る。	・日々の授業を大切に、自ら考え、自ら学ぶ姿勢や主体性のある意識の向上を図る。	A		引き続き継続する。	
		・検定等の資格取得を推奨し、進路意識を持たせながら学習意欲の向上に努める。	B		早い段階から検定や資格につい て意識づけをする。	

2年次	①基本的な生活習慣を確立する。	・挨拶の励行や標準服の正しい着用、時間の厳守等、基本的な生活習慣の確立を図る。	B	B 継続して指導する。 継続して指導する。 家庭と担任が連携を図り、生徒指導に当たることができているが、特定の保護者との連絡が取れず（仕事の関係）苦慮することがあった。確実に連絡が取れる時間の確認を行う。 公共の場を理解し相手に対して配慮することができるように指導する。 道徳心や多様性を認める力を養う必要があり継続的指導を実施 修学旅行を通し、異文化交流を行うことができた。 自ら学ぶ事ができる生徒とできない生徒との二極化が顕著であるため、授業担当者と連携して声掛けや面談を実施する必要がある。 進路で有利になる検定試験の積極的な受験に向けた継続的な指導を実施していく。
		・学校が自己実現の場として最大限の機能を果たせるように常に環境改善に努める。	A	
		・家庭と学校が連絡を密接に行い、連携して生徒の生活習慣の獲得に努める。	B	
	②社会性の向上を図る。	・善悪を判断する力、正義感、公共のルールやマナーを守る姿勢を身に付けさせる。	B	
		・周囲に感謝する心や互いに助け合う精神、多様な意見を尊重する姿勢を醸成する。	B	
		・勤労体験、修学旅行等の校外諸活動を通して、社会性の向上と心の育成を図る。	B	
③進路実現に向けた方向性の確立及び学力の向上を図る。	・日々の授業を大切に、自ら考え、自ら学ぶ姿勢や意識の向上を図る。	B		
	・検定等の資格取得を推奨し、進路意識を持たせながら学習意欲の向上に努める。	B		
3年次	①生徒個々の希望や適正に応じた進路の実現を図る。	・面接練習を中心に、進路に対する意識を高め、進路実現を目指す。	A	
		・総合的な探究や個別対応を通して必要な情報を提供し、適切な進路指導を行う。	A	
	②基本的な生活習慣を確立する。	・挨拶励行、標準服の適切な着用、時間厳守、整理整頓を習慣づける。	B	
		・家庭と連携して規範意識を高め、問題行動の未然防止に努める。	A	
	③社会性の向上を図る。	・学校生活を通して、適切な意志決定・行動選択をする能力を養う。	B	
		・様々な考え方や意見を尊重しつつ、他者と協力できる態度を身に付けさせる。	B	

※評価基準： A：十分達成できた B：達成できた C：やや不十分だった D：不十分だった